

○ 本校の概要

○令和元年度11月1日現在
 ・全生徒数=400名 第1学年137名、第2学年123名、第3学年125名、特別支援学級(5組)15名
 <学校教育目標>1. 知的で感性豊かな生徒を育てる。2. 健康明朗で頑張る生徒を育てる。 <指導の重点>1. 学力の充実努める真剣な授業 2. 生徒の連帯を深める美しい 3. 環境を整備する美しい
 <学校スローガン>あ・じ・み あいさつをする・時間を守る・身だしなみを整える

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

| 大項目 | 目標 | 取組内容 | 取組指標 | 取組評価 | 目標に対する成果指標 | 成果評価 | これまでの取組 今後の改善策 | 学校関係者記入欄 | | |
|--|--|---|---|--|---|---|---|----------|---------------|---|
| | | | | | | | | 評価 | 人数 | コメント |
| プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成 | コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化に対応する子どもの力と自信を身に付けます。 | 外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成を図っている。 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのつくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 | 4 | 4:「自分の学力は向上していると思う」とアンケートにおいて答えた生徒の割合が80%以上 | 4 | 47%であった。新型コロナウイルス感染症による臨時休校や1学期の評価・評定が出されたことも影響したと思われる。令和3年度は挽回したい。 | A | 4 | <ご意見として> 今年度はコロナ禍で関わりがでず、終わりました。内も分らない状況でのアンケートですが、送られてくる「学校だより」が唯一の情報源となっています。一年を通し、命を脅かす状況の中で、いろいろな行事をこなし、部活動でも結果を出し、頑張りましたねと言いたいです。先生方の苦勞を考えると頭が下がる思いです。すべてが初めての経験で戸惑い、不安の中で学校生活が無事に今日に至ったことで、オールAを付けさせていただきます。 |
| | | | 4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 | 3 | 3:「自分の学力は向上していると思う」とアンケートにおいて答えた生徒の割合が65%以上 | 2 | | B | | |
| | | | 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。 | 2 | 2:「自分の学力は向上していると思う」とアンケートにおいて答えた生徒の割合が50%以上 | | | | C | |
| | | | 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 | 1 | 1:「自分の学力は向上していると思う」とアンケートにおいて答えた生徒の割合が50%未満 | D | | | | |
| プラン2 児童・生徒一人ひとりの学び意欲を高め、確かな学力を定着させます。 | 学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 ★教員が中心となって、土曜補習を年間27回実施する | 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 | 4 | 4:「授業の内容は理解できる」とアンケートにおいて答えた生徒の割合が80%以上 | 3 | 78%であった。内容は理解しているものの、学力向上の自負がないことが現状である。今後は理解度が学業向上の自負(実際にも)につながるよう、評価の在り方や振り返り(フィードバック)の仕方を模索していく。 | A | 3 | | |
| | | 4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 | 3 | 3:「授業の内容は理解できる」とアンケートにおいて答えた生徒の割合が65%以上 | | | B | 1 | | |
| | | 4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。 | 2 | 2:「授業の内容は理解できる」とアンケートにおいて答えた生徒の割合が50%以上 | | | C | | | |
| | | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 | 1 | 1:「授業の内容は理解できる」とアンケートにおいて答えた生徒の割合が50%未満 | | | D | | | |
| プラン3 子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。 | 小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 ★学校スローガン「あ・じ・み」の徹底をする | 4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 | 4 | 4:「学校の決まりをきちんと守っている」とアンケートにおいて答えた生徒の割合が80%以上 | 4 | 90%であった。このことから生徒はしっかりと規範意識を持って学校生活を送っていることが伺える。新型コロナウイルス感染症の影響で普段とは違う学校生活や家庭状況であっても、生徒たちは一生懸命に規範意識を持っていたことは大変素晴らしい。このことを学習面等に反映させることができるよう今後も取り組んでいく。 | A | 4 | ・規範意識はともいいます。 | |
| | | 4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。 | 3 | 3:「学校の決まりをきちんと守っている」とアンケートにおいて答えた生徒の割合が65%以上 | | | B | | | |
| | | 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 | 2 | 2:「学校の決まりをきちんと守っている」とアンケートにおいて答えた生徒の割合が50%以上 | | | C | | | |
| | | 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 | 1 | 1:「学校の決まりをきちんと守っている」とアンケートにおいて答えた生徒の割合が50%未満 | | | D | | | |
| プラン4 スポーツに親しむ心や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。 | 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 | 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 | 4 | 4:「自分の体力は向上していると思う」とアンケートで答えた生徒の割合が80%以上 | 2 | 47%であった。新型コロナウイルス感染症による臨時休校や体育的行事や保健体育の授業内容に制限があったため、いつも以上に、体力の向上を感じるできなかったと思われる。令和3年度は充実した体育的行事、保健体育の授業内容の充実を図っていく。 | A | 3 | | |
| | | 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 | 3 | 3:「自分の体力は向上していると思う」とアンケートで答えた生徒の割合が65%以上 | | | B | 1 | | |
| | | 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 | 2 | 2:「自分の体力は向上していると思う」とアンケートで答えた生徒の割合が50%以上 | | | C | | | |
| | | 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 | 1 | 1:「自分の体力は向上していると思う」とアンケートで答えた生徒の割合が50%未満 | | | D | | | |
| プラン5 児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくり出す。 | 授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 | 4 | 4:学校公開時の保護者アンケートにおいて「生徒たち一人一人の活動が充実していた」と答えた割合が80%以上 | 3 | 今年度は、新型コロナウイルス感染症により、学校公開を1回(3学期)しか実施できなかった。しかし、開催した3学期(1月)では、作品展も実施したこともあり、「生徒の作品を見るのができて良かった」「少しでも授業の様子をうかがえることができて良かった」という意見を多数いただいた。今後も教育環境の整備に努めていく。 | A | 3 | | |
| | | 4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。 | 3 | 3:学校公開時の保護者アンケートにおいて「生徒たち一人一人の活動が充実していた」と答えた割合が65%以上 | | | B | | | |
| | | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 | 2 | 2:学校公開時の保護者アンケートにおいて「生徒たち一人一人の活動が充実していた」と答えた割合が50%以上 | | | C | | | |
| | | 4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。 | 1 | 1:学校公開時の保護者アンケートにおいて「生徒たち一人一人の活動が充実していた」と答えた割合が50%未満 | | | D | 1 | | |
| プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わった教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。 | 教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。 | 4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。 | 4 | 4:「学校・学年便り等で学校の様子がよくわかる」とアンケートで答えた保護者・地域の方の割合が80%以上 | 4 | 86%であった。毎週の学年便り、毎月の学校だよりに加え、学級だよりを発行している学級もあり、そのことが評価に表れていると思われる。今後はホームページの内容充実を図ると共に、生徒一人一台貸与される、タブレット型PCを有効活用しながら、家庭に発信していく。 | A | 4 | | |
| | | 4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。 | 3 | 3:「学校・学年便り等で学校の様子がよくわかる」とアンケートで答えた保護者・地域の方の割合が65%以上 | | | B | | | |
| | | 4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。 | 2 | 2:「学校・学年便り等で学校の様子がよくわかる」とアンケートで答えた保護者・地域の方の割合が50%以上 | | | C | | | |
| | | 4:「学校・学年便り等で学校の様子がよくわかる」とアンケートで答えた保護者・地域の方の割合が50%未満 | 1 | 1:「学校・学年便り等で学校の様子がよくわかる」とアンケートで答えた保護者・地域の方の割合が50%未満 | | | D | | | |
| <アンケート集計数> 生徒アンケート = 387 保護者アンケート = 378 | | | | | | | | | | ★今年度は、新型コロナウイルス感染症のため、「評価できない」場合は提出不要としたため、10名中4名の提出となった。 |

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す